平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3070103142		
法人名	有限会社　ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー・和歌山　【ユニット名：すみれ】		
所在地	和歌山市田中町二丁目19番地		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3070103142-00&PrefCd=30&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、一般住民も入居するマンションの2・3階にある2ユニットの施設であります。民家や商店等が多く立ち並んでいる環境で生活されていた方々もいる中で、生活環境が近く、最も安心して、安らぎを感じて頂く住空間であります。買い物や交通機関の利便性があり、近くには数カ所の公園、中学校等の公共施設も立ち並び、地域住民の生活が感じられる環境です。そのような環境の中、ネオファミリー（新しい家族）として職員全体が我が家のように感じて貰えるよう、日々介護技術の向上を意識し自己研鑽に努め、理念に基づいた介護を実践しています。又、医療機関との連携にも重点をおき、重度化、ターミナルの支援にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

市街地のマンションの2、3階に位置し、街中の暮らしに馴染んでいた人にとって今までの生活を継続しやすい環境である。「やすらぎ・喜び・安心」と「地域と歩み、地域と共に」を理念に掲げ、全職員が共通意識を持ち日々の生活に視点を置いた支援に努めており、入居者は、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で日々の生活を送っている。ターミナルまで支援して行く考えを職員全体で共有し、入居した時点から家族の意向を聞き、主治医・訪問看護・職員・家族が連携し終末期まで穏やかに過ごせるよう話し合いがなされている。入居者の尊厳を考えプライバシーには特に配慮した介護を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と歩み地域と共に・やすらぎ・よろこび・安心」の理念を掲示し、職員全体が共有し、介護の実践につなげている。	入居者の立場での視点を持ち、どうしたら理念の「やすらぎ、安心」が得られるかを常に考え、ケアを実践している。「地域と歩み・地域と共に」何ができ、活動できるかを職員全員で考え実行出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週水曜日、施設周辺のゴミ収集場等、入居者と共に清掃活動をし、地域住民の一員として地域交流するよう努めている。	自治会には入っていないが、マンションのエレベーター内やゴミ置き場を入居者と共に清掃している。近隣にパンフレットを配り相談を受けるなど、マンションの住民を含め交流を深めようと模索している。	近隣や町内の情報を得る為にも自治会に入ることも1つの手段と考え、地域の中の一員として季節の行事などお互い日常的に交流して行く事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や近隣住民へのアプローチにより、入居相談等介護への関心も徐々にではあるが理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域の方を交えて、サービス内容の報告をし、助言を求め、サービス内容向上に活かすよう努めている。	地域住民や入居者の出席はなく事業所のメンバーが中心になっている。会議で出された意見はケアに反映できるようにしている。	地域住民が興味を持って関われるような方策を検討し、また入居者も加わることができるよう工夫するなど、今後さらなる努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険課への相談や報告をし、アドバイスを求め、協力体制の構築に努めている。	市の介護保険課や地域包括支援センターには、常に出向き、コミュニケーションを図るようにしている。成年後見人制度を利用している人もいる為相談や意見を貰ったりと良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を正しく理解し、廊下・詰所への掲示等、日々のケアサービスにおいて常に職員が意識し、身体拘束のないケアを実践している。	研修に力を入れ、直接的な拘束だけでなく、見えない拘束にも気をつけて、一人ひとりに丁寧に対応して、拘束しないケアに取り組んでいる。常に意識できるようマニュアルは誰もが見える場所に置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、理解を深め、日々のケアにおいて不適合なケアがおこなわれないよう注意し取組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員内部研修において、地域権利擁護や成年後見制度について学び、制度の在り方、必要性を意識付けしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人及び家族に対し、十分な契約説明をし、理解・同意を得ている。又、サービス開始後も必要に応じて説明をし、再認識して頂くよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日常会話の中や、家族面会時、又、状況報告等の電話連絡などにおいて、意見や要望を傾聴しサービスに反映していくよう努めている。意見箱の設置により意見・要望の収集にも努めている。	電話連絡や家族の来訪時に意見や要望を聞き、迅速に対応するようにしている。毎月ネオファミリー通信を送付し日々の様子を家族に知らせている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員と話し易い雰囲気作りを心掛け、職員会議や申送り時、意見や提案・要望を聞き、その後検討し職場改善に努めている。	職員会議は月１回行っており、意見を出しやすい雰囲気である。職員からの意見や提案がケアに反映されている。自己・外部評価の内容も職員間で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理を含め、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧し、職員個々の希望に沿った研修の機会を設けている。又、力量に応じ適切な研修への参加を促しており、研修参加後、職員会議等で発表す機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	充実したネットワークの構築には至っていないが、同業者との交流の中で運営に関する情報収集は行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を基に本人とのコミニケーションの中で、受容的対応し不安要素や要望を受止め、早期に安心出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常日頃から家族の立場・思いに立ち、要望や不安な事に対し、早期解決することで、より良い関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が何を求めているのか、今現在の悩みや要望を聞取り、課題を見出し視野を広げ対応するよう取組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の良き先輩として尊厳を大切にし、生活を皆共にする家族として、相互関係の構築に日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての職員が、面会時や電話連絡等にて近況報告をするなど深く関わりを持ち、時には家族の協力を得て本人を共に支える支援をおこなっている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に関わりのあった馴染みの方の面会も多く、又、家族の協力のもと墓参りや、昔馴染みのあった店などへの外出もあり、関係が途切れないよう支援に努めている。	墓参りや、行きつけの美容院に家族と一緒に行くこともある。知人に年賀状を出したり、いただいたり、これまでの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ネオファミリー（新しい家族）の意味合いもあり、家族との関係を保ち、又、家族との橋渡し役をし、孤立感を感じさせないよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話のやり取りや、遊びに来られる家族もおり、関係を継続しており、ケースに応じては、入所希望等の相談も受けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミニケーション時、又、本人の行動・表情から思い・希望をくみ取るよう努めている。困難なケースは家族と相談し検討している。	家族、職員が一緒に考え、本人の思いを知ることができるよう「家族と共に考える利用者の介護」というアセスメントの様式をつくり、写真も使用しながら、本人像を把握し個別の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や介護・医療サービス機関より出来るだけの情報を収集し、サービス開始後も		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態観察・把握に日々努め、職員個々の気づきや意見を随時検討し、又、申送りや申送りノートの活用で情報、問題点を把握し共有するよう取組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議、主治医の往診等で、個々の現状に沿ったサービスの意見交換をし、介護計画に反映させている。	ケア計画は見直しや変更も必要に応じて行っている。スタッフ会議や申し送りの際に職員間で話し合った内容を踏まえて介護計画を作成しているが、抽象的な内容が多い。	職員が見てすぐ分かるように明確な目標を設定し具体的にする事で、共通の意識を持って、日々の介護実践につなげていくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外に申送り等で気づきや意見交換をしサービスの統一を図り、申送りノートの活用も含め職員全体で共有し介護計画の見直しに活かすよう実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに沿ったサービス内容の取入れを視野に入れ、支援するよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源（警察・消防・民生）との関わりにより安心して暮らせるよう支援している。全ての地域資源の活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族は当施設の協力医療機関の往診を希望される方が殆どである。必要に応じ主治医の紹介と家族協力を得て、専門的な診察を受けられるよう支援している。	各ユニットごとに協力医がいるため、緊急時にどちらかの医師が往診してくれるという安心感から、入居後は、協力医をかかりつけ医に希望される場合がほとんどである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の訪問時や状態変化時での電話相談により、適切な指示・指導を受けている。又、主治医に同行される看護師とも相談等の連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療従事者に対し、情報提供書による説明をおこない、早期退院に向けての情報交換や、退院後の受入れ態勢やケアについても相談すよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及びターミナル期において、家族や本人の意向を踏まえ、当施設での出来る事出来ない事を家族や関係者で十分話合い、納得・同意した上で家族・医療・介護が連携し共有しながら取組んでいる。	入居時から話し合い、家族・主治医・訪問看護等と連絡を取りターミナルケアを行っている。終末期の出来る事・出来ない事の説明をすると共に緊急時の対応について家族の意向も聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを含め、応急手当や初期対応についての研修を実施し、緊急時慌てず冷静に対応出来るよう取組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	和歌山市中消防署予防班の連携のもと、避難場所や避難経路を職員全体が把握している。又、年2回の総合訓練を実施し、訓練実施報告記録を消防署に報告・提出している。	防災訓練は年2回の実施だがマンションの住民や入居者は参加していない。消防署と話し合い火災時は3階ベランダ、地震時は7階に避難し、5分で救助隊が来る体制となっている。	災害時に避難する意識付けが望まれ、入居者も避難訓練に参加するとともに、訓練時近隣住民も加われるよう呼びかけ、災害時の協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス実施において、入居者個々の人格を尊重し、気分を害さぬよう思いやりのある声掛け関わりをおこなっている。排泄時の声掛けも含めプライバシーの尊厳に日々努めている。	個々のこれまでの生活を知り、プライドを傷つけないよう気配りし話を聞いている。人前でトイレに誘う時には、声掛けに配慮し、ポータブルトイレの洗浄も見えない所で行うなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望等、表現しやすい雰囲気づくりに心掛け、可能な限り自己決定して頂くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の身体的・精神的な状況を日々把握し、生活のリズムを崩さぬよう配慮し、可能な限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容室への利用や訪問美容の活用で整髪等の身だしなみを行っている。又、衣類の選択や家族協力のもと、衣類の補充にて日々の身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じものを一緒に食べて食事の団欒を楽しんでいる。利用者の状況を考慮し、配膳、下膳等のお手伝いをして頂いている。	調理は職員だけで行っているが、職員も同じものを一緒に食べ、下膳は一緒に行っている。食事時間も個別に対応し、ゆったりと和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については個人チェック表の活用で個々の状況を把握している。献立に関し、栄養のバランスを考え、又、日々の利用者との関わりの中から希望されるメニューを組入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の生活習慣もあり毎食後とはいかないが、口腔状態に応じた支援や、本人の力量に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用で、個々の排泄リズムに合わせた支援を行っている。又、早めの声掛けによるトイレ誘導を行い、不快な思いをすることの無いよう配慮し支援している。	オムツを使用している人にも本人のサインを探しながらトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理と共に排泄（排便）の重要性を理解し、水分補給や軽度の運動を行うことで、便秘予防に努めている。又、主治医、訪問看護との相談により、個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については十分確保できており、個々の希望を聞きながら、同性介護を含め、希望に沿った入浴支援を実践している。	週3日の入浴日以外でも希望に応じてシャワー等の対応をしている。同性介護を基本とし、入浴を嫌がる人には原因を探り、1つ1つの動作をゆっくり行うよう配慮して、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の体調を考慮し、安心して休息出来るよう、空調の調整・光量等にも配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情については個々の薬箱に添付し理解し、変更があれば薬剤師へ連絡を取り、説明・相談をし連携を図っている。又、服薬確認の支援も個々の状態に合わせ実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味等を理解・把握した上で、風景画、手紙、読書といった楽しみを個々におこなっており、洗濯物の整理や、自室の掃除といった役割・張り合いを見出す場面作りの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望・要望に沿って、コンビニ等への買い物に出かけたり、近くの公園へ散歩に出かけたりと、気分転換を図っている。又、ベランダを利用し外気に触れて頂くなどの支援をしている。	日常的にコンビニに行ったり、公園や近くの学校周辺を散歩している。外出できない人にはベランダに出ることができるよう配慮している。外食や花見も実施している。外食はアンケートによって希望にかなうよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態に合わせ、家族との相談の上、嗜好品などに使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って連絡することの支援を行っている。届いた手紙や電話の取次ぎも本人にしている。携帯電話を所持されている方もおり、手紙を書かれ郵送等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に季節感を取入れた装飾品を飾り、不快にならないよう音量や光量、室温にも配慮し、居心地の良い空間づくりの工夫を行っている。	明るく採光も良く湿度にも気をつけている。ベランダには季節を感じられる花が植えられ、目で楽しめるよう工夫している。ゆったり過ごせる空間が作られ、食後ソファーに座り話がはずんだり和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でもあるリビングにおいて、利用者同士がのんびりと雑談したり、テレビを見たり、趣味の制作の場にできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等の持込みは十分ではないが、その人らしく快適に過ごせるよう、テレビやテーブル、小物や家族の写真等が持込まれている。	自分の作った作品を飾ったり、故人に果物やお菓子をお供えしてお勤めをしている人もいるなど、個々に合せた居室となっている。居室のドアは間違わないよう特徴のある表示で工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口に表札を付ける事で場所の把握に努め、又、障害物等を無くす事で安全に生活出来るよう配慮している。		